

研究構想シート	学校名	浜田市立周布小学校	
	氏名	佐堂 祐一	
A 研究主題 確かな学力を育むための数学的な活動を活かした授業づくり ～問いの見せ方・内容・タイミングに焦点を当てて～			
B 研究の目的 児童の理解を確かなものにするための、よりよい問いの見せ方・内容・提示するタイミングについて明らかにする。			
C 子どもの実態 ◎強み ・食いつき（反応）が良く素直に楽しむ ・人と関わることが好きで、ミニ先生をやりたがる ・活動的でよく話す（説明、ペアやグループ交流） ・見通しが立つと活動の流れに乗ることができる  △課題 ・間違ふことへの抵抗感が大きい ・やる前から「できない」とあきらめる ・認めてほしい気持ちが強い ・臨機応変に対応できない ・コツコツ取り組むことが苦手	E 手立て・内容（研究仮説） ・問題の設定や提示方法を工夫することで、分かってもらう児童の思いを引き出すことができるのではないか。（問いとの出合わせ方の工夫）  ・問題の内容（難易度や問題数等）、提示するタイミングを吟味することで、児童の理解を確かなものにするることができるのではないか。（多種多様な問いとの出会い）	D めざす子どもの姿 ・課題に対して粘り強く取り組む子（進む子・育つ子）  ・「算数は分かる」と自信をもって言うことのできる子（学ぶ子）	
	F 検証方法 ・算数アンケートの結果を分析（1学期・3学期で比較） ・研究授業を通した児童の変容と、その背景を分析		
	G 研究計画 ・研究構想決定（5月） ・算数アンケート実施 ・R7公開学年の授業単元を決定（1学期中） ・R7公開学年の授業についての素材集め（先行研究、指導案、論文、教材等） ・指導案作成（夏休み中） ・研究授業（市内公開：10月、11月） ・研究協議を受け、指導案の改善策を検討（2学期中） ・算数アンケート実施（1月） ・研究の振り返り、まとめ（2月） ・次年度の研究構想を立案（3月）		